

THE NEW VALUE FRONTIER



京セラ 社会 環境報告会

Kyocera Sustainability Presentation

2006



1

会社概要 (2006年3月31日現在)



社名 : 京セラ株式会社 KYOCERA Corporation
設立 : 1959年4月1日
代表者 : 代表取締役社長 川村 誠
資本金 : 1,157 億円
売上高 : 連結 1兆1,815 億円
 単体 4,774 億円
従業員数 : 連結 61,468 名
 京セラ単体 1社 連結対象子会社 168社
 持分法適用非連結対象子会社 2社 合計 171社
 : 単体 12,457名

主要事業

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. ファインセラミック部品関連事業 | 5. 通信機器関連事業 |
| 2. 半導体部品関連事業 | 6. 情報機器関連事業 |
| 3. ファインセラミック応用品関連事業 | 7. 光学機器関連事業 |
| 4. 電子デバイス関連事業 | 8. その他の事業 |

2

社 是
お天愛人

常に公明正大 謙虚な心で 仕事にあたり
天を敬い 人を愛し 仕事を愛し 会社を愛し 国を愛する心

経営理念

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、
人類、社会の進歩発展に貢献すること。

経営思想

社会との共生。世界との共生。自然との共生。
共に生きる (LIVING TOGETHER) ことを
すべての企業活動の基本に置き、豊かな調和をめざす。

京セラフィロソフィに含まれる三要素

京セラフィロソフィの内容は、次の三要素が含まれています。

1. 企業経営の規範となるべき
ルール、規則、約束事

京セラグループでは、このような規範で経営するとい
う、企業内で必要とされるモラルが含まれています。

2. 企業がめざすべき目的、目標
を達成するために必要な考え方

高い目標を達成するためにはどういう考え方をし
どういう対処の仕方をしなければならないのかという
実践につながる考え方が含まれています。

3. 企業に素晴らしい社格 (人格)
を与えるもの

社格が、民族、国を越えて、世界中から信頼と尊敬
を得られるためには、どういう考え方をしなくてはなら
ないのか、という内容が含まれています。

京セラフィロソフ教育



役員および一般社員、パートタイマーに対して、「京セラフィロソフ研修」を定期的の開講しています。

“コンパ”



京セラグループでは、信頼関係を構築するための手段として、会社行事や“コンパ”を重要視しています。

京セラグループが考えるCSR

京セラグループにとってのCSRは、決して新しい概念、価値観ではなく、経営の根幹である「京セラフィロソフィ」の実践そのものであり、「京セラフィロソフィ」を実践することにより、ステークホルダーとの相互信頼の構築、京セラグループの持続的な発展、そして社会の健全な発展に寄与することにつながると考えています。





高収益実現のための事業活動

より良い製品・サービスを提供することで、人々の生活の質の向上に貢献するとともに、その活動によって得られた収益を、税などの形で社会に還元することです。そういう点で、企業は常に高収益であらねばならないと考えています。



社会貢献活動

京セラグループでは、人々の役に立つ製品・サービスを生み出すことが、人類・社会の進歩発展に貢献することだと考えています。また、企業も社会を構成する一市民であるとの視点に立って、地域や社会の抱える課題に積極的な関心を持ち、その解決に努めるとともに、メセナ活動を通じて、社会の経済的、文化的発展に積極的に貢献することをめざしています。



環境保護活動

環境問題は私たちの生存をも危うくしかねない最重要課題のひとつです。

京セラグループでは、「外に排出する時は、自然に近い状態に戻す」という姿勢で環境保護活動に取り組んでいます。

透明性の高い企業活動

常に普遍的な倫理観にもとづく透明性の高い企業活動を行っています。また、情報開示をよりタイムリーに行うことで、京セラグループの状況をご理解いただき、信頼を得られるように努めています



CSR活動の目的

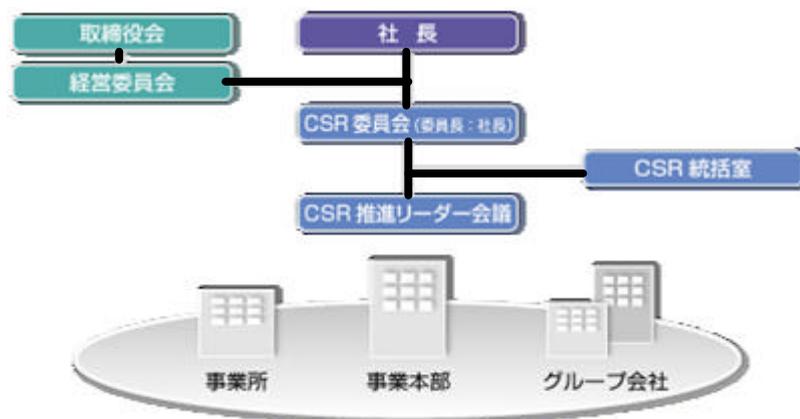
京セラフィロソフィの実践をベースに、組織的なCSR活動を推進することで、ステークホルダーとの相互信頼を構築し、京セラグループの持続的な発展をより確かなものとするとともに、社会の健全な発展に寄与する。

CSR活動 重点項目

- アメーバ経営への原点回帰
- コーポレート・ガバナンスの強化
- 社会貢献活動の充実化
- ステークホルダーとのコミュニケーションの推進

CSR推進体制の整備

京セラグループでは、全グループにわたるCSR活動の推進体制を強化するため、2005年11月1日に「CSR委員会」、「CSR統括室」を設置しました。



京セラグループのCSR



CSR活動への主な取り組み

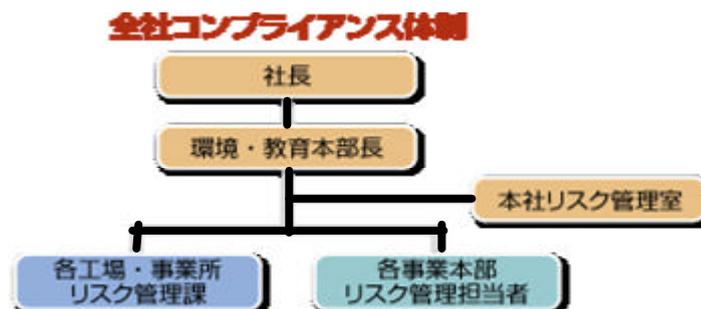
1963	歳末助け合い募金への協力が始まる	経済性 社会性 環境
1965	時間当り採算制度が発足	
1969	鹿児島大学工学部稲盛奨学資金を贈呈	
1970	通商産業省より「輸出貢献企業表彰」を受賞	
1974	東京証券取引所第1部に指定替え	
1974	第16回科学技術庁長官賞を受賞	
1975	ジャパン・ソーラー・エナジー(株)を設立し、ソーラーエネルギー事業に参入	
1976	第1回京セラ海外研修ツアーを実施	
1980	ニューヨーク証券取引所に上場	
1985	環境担当専門部署を設立	
1991	京セラ環境憲章を制定	
1997	中国少年友好交流訪日団を開始	
1999	第8回地球環境大賞「フジサンケイグループ賞」を受賞	
2001	お客様相談室を設置	
2003	社員相談室の設置	
2004	社会・環境報告会を開始	
2005	全社CS向上委員会を発足	
2005	CSR委員会、CSR統括室を設立	

11

コンプライアンスとリスクマネジメント



コンプライアンス体制 (法令等の社会的規範の遵守)



リスクマネジメント

リスクマネジメント基本方針

1. 法令遵守の徹底
2. 高い職場モラルの確立
3. トータルリスク管理システムによる予防と対策

12

京セラグループの経営方針

21世紀に、さらに成長し続ける創造型企業

3つの具体的な方針を掲げ、「新技術・新市場創造」を推進することで目標達成をめざします。

高収益体質の構築

- アメーバ経営の実践
 - ・実現力の強化
 - ・現場力の強化

お客様第一主義を貫く

- 品質、価格、納期、サービスの向上
- 顧客満足度の向上

さらなるグローバル経営の推進

- 最適値での開発、製造、販売体制の構築
- グループの経営資源の融合



トピックス 2005



2005
11月



©KYOTO PURPLE SANGA

京都パープルサンガJ1復帰、J2優勝

2005
11月



©日本放送協会

NHK (日本放送協会)
「プロジェクトX」太陽光発電事業を紹介

2005
12月



複写機部門顧客満足度調査
にて最優秀賞を受賞

2006
1月



低VOCの絶縁ワニスの
開発

2006
2月



世界初ピンクの
クリエイテッド・オパール

15

社会性 報告

ステークホルダーとの
相互信頼の構築



企業は社会の公器です。人間が営む活動である限り、その存在は社会的であるべきです。企業経営とは、企業を取り巻くすべてのステークホルダーが営む、一種の生命活動であり有機的に補完しあう中で行っていくものであると考えます。

16

社会 環境報告会



【2005年実績】

	開催会場	参加人数
京セラ	9会場	263名
京セラグループ	4会場	113名
合計	13会場	376名

社会 環境報告書を読む会



【2005年実績】

会場	参加人数
滋賀蒲生工場 滋賀八日市工場	408名
鹿児島川内工場	341名
鹿児島国分工場	480名
合計	1,229名

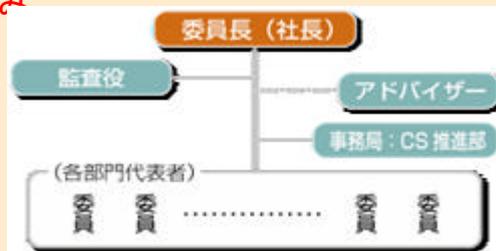
お客様とのかかわり

京セラ品質方針

- 1.地球環境 製品安全を最優先とする。
- 2.顧客第一に徹し、魅力ある製品・サービスを提供する。
- 3.最初から正しく仕事をし、品質の世界リーダーとなる。

お客様満足度向上への取り組み

2005年9月より、社長を委員長とし、京セラグループ会社を含めた各部門の代表者を委員とする「全社CS向上委員会」を発足しました。



京セラグループ「全社CS向上委員会」

地域社会とのかかわり



学術 研究支援

京都賞



稲盛経営技術アカデミー



米国アルフレッド大学に 稲盛和夫工学部「開校



19

地域社会とのかかわり



教育・文化支援

稲盛京瓷 西部開発奨学基金



縄文遺跡ミュージアム



中国少年友好 交流訪日団



CSIS 京都フォーラム



「食育」への取り組み



京セラ文庫 「英国議会資料」



20

地域社会とのかかわり



スポーツ支援

京都パープルサンガ



©KYOTO PURPLE SANGA

プロサッカー
選手育成プロジェクト



©KYOTO PURPLE SANGA

全国車いす
駅伝競走大会への支援



地域社会での活動

京セラファインセラミック館



京セラ美術館



全国社会福祉大会で
厚生労働大臣表彰



21

地域社会とのかかわり



地域社会での活動

乳がん撲滅運動の支援



米国南部ハリケーン被災地支援



子供発達支援センター
へ通園バスを寄贈



JICA ナイジェリア
研修生受入



小学校へソーラー
発電システムを寄贈



22

環境 報告

企業は人と社会のためにある
その思いが、環境保護のパイオニアの証し

環境の世紀と呼ばれる21世紀。
京セラは、企業活動が地球に与える環境負荷や人々の暮らしへの影響を早くから認識。
明確な環境保護のビジョンを掲げ、経済活動と環境活動の両立を追求しています。
人々にとって魅力的な商品やサービスを提供するとともに、廃棄物の削減、省エネルギー・地球温暖化防止、省資源など、多岐にわたる環境保護活動にグループの総力を挙げて取り組んでいます。



京セラ環境憲章

1991年10月1日 「京セラ環境憲章」を制定

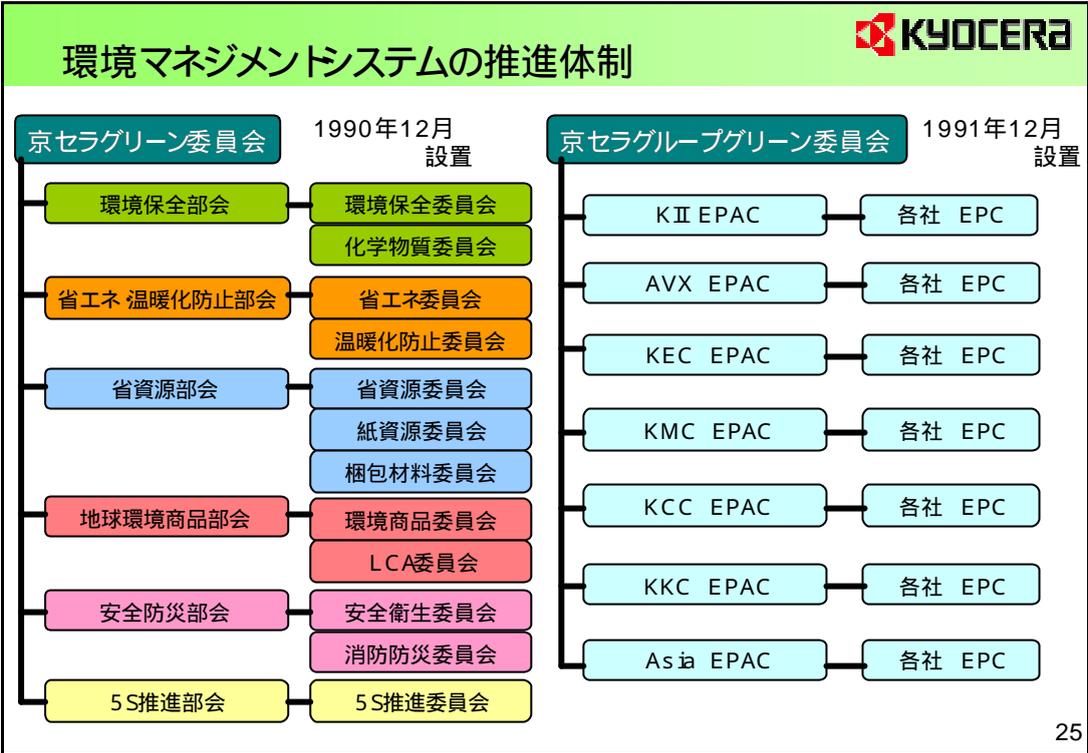
はじめに
基本理念
環境方針
環境目的
社内体制
適用

基本理念 (抜粋)

すべてのものを生かそうとする「宇宙の意志」と調和する心をもって仕事にあたってきている。これはまさに今日の地球環境問題に取り組む企業に求められる考え方を先取りしており、企業活動は人間の尊厳を維持し、社会の持続的発展を可能にするものでなければならないことを指し示している。

環境方針

1. 地球環境保護を最優先した社内環境基準の遵守
2. 資源の最も有効活用とプロセス技術の革新
3. 環境保護貢献商品と環境負荷低減商品の積極的な開発
4. 環境政策への協力と社会的貢献活動への参画・支援



環境マネジメントシステムの展開



- 1996年 9月 環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」発行
- 1996年10月 「三重工場」で初のISO14001認証取得
- 1999年 8月 京セラ全42拠点で「**全社統合環境マネジメントシステム**」統合認証取得
- 2000年11月 「**京セラグループ統合環境マネジメントシステム**」一括認証取得
- 2006年 3月現在 国内においては189拠点で、統合認証取得を完了

環境マネジメントシステム 運用拠点数

京セラグループ 統合環境マネジメントシステム	189
環境マネジメントシステム (個別認証)	25
AVXグループ自己認証環境マネジメントシステム	44
K G E M S (自己認証)	100
合計	358

海外グループを含む全拠点で、環境マネジメントシステムを運用

26

環境会計

2005年度の分析結果

環境保全コスト

投資額 : 46億14百万円
 費用額 : 113億13百万円
 (そのうち、研究開発コストは、
 42億25百万円)

研究開発コストを除いた費用額
 : 70億88百万円

経済効果

収入 : 18億14百万円
 費用削減 : 41億72百万円
 合計 : 59億86百万円

環境保全効果

CO₂排出削減 : 61,260 トン CO₂
 水使用量削減 : 3,991 万m³
 廃棄物削減 : 33,157 トン

環境配慮コンセプト



3つのテーマを掲げ、各テーマについて環境配慮コンセプトを設定。
 京セラグループとして、製品・サービスのあらゆる面から地球環境問題に対して
 取り組んでいく姿勢を明確に示しています。

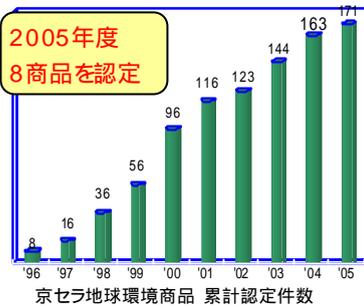
京セラ地球環境商品



京セラ地球環境商品 認定制度

認定基準をクリアする商品は、
「京セラ地球環境商品」として認定
「京セラエコラベル」の貼付可能

2005年度
8商品を認定



2005年度 京セラ地球環境商品 認定商品例



パワーコンディショナー



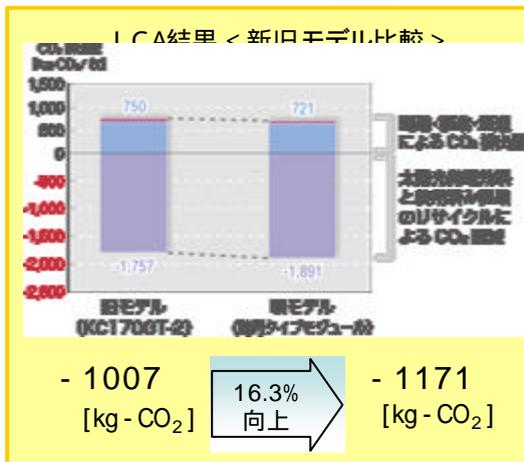
Bluetoothモジュール



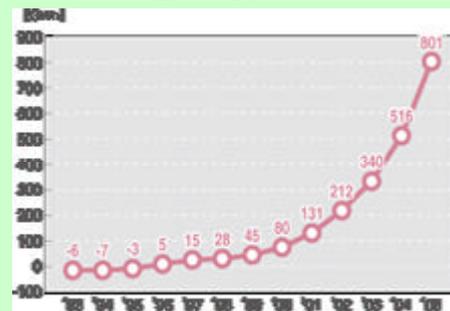
積層セラミックチップコンデンサ

環

光発電システム)



<創エネ電力量>



2004年度までに出荷した太陽光発電システムが、今後20年間発電が継続するとして試算

電気料金換算で、732億円
CO₂累積削減量で、6,323千トン-CO₂
の効果

グリーン調達



京セラグリーン調達概念



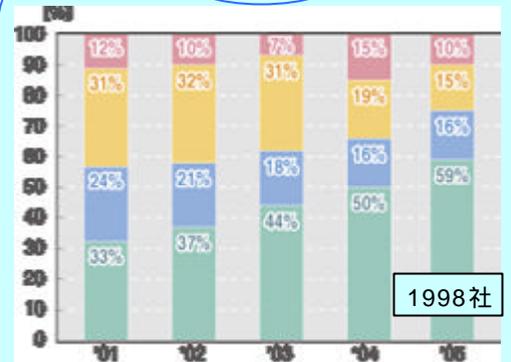
商品自体

京セラ
グリーン調達
ガイドライン

調達品環境配慮項目

1. 禁止化学物質の非含有、不使用
2. 省エネ、省資源
3. リサイクル容易
4. 梱包材削減

企業体質



お取引先様の環境マネジメントシステム構築支援



・KGEMSマニュアルの無償開示
お取引様からの相談対応

31

製品含有化学物質管理



2006年7月
RoHS指令 施行

鉛、水銀、カドミウム、六価クロム
PBB、PBDEの6物質について
原則として製品への含有を禁止
とする指令



RoHS指令に対応するための
京セラグループグローバル方針

2005年7月
調達する部品、材料への対応
期限

2006年1月
出荷製品の対応期限



製品含有化学物質管理、回答フロー

32

化学物質管理の取り組み



化学物質管理システム

排出量 大気・水域	移動量 廃棄物
--------------	------------

PRTR法第1種指定化学物質削減

京セラで使用しているPRTR法第1種指定化学物質のうち、使用量90%以上を占める18化学物質を対象に、削減目標を設定



2005年度の結果

排出純量原単位 2004年度比 **10.9%削減**
 移動純量原単位 2004年度比 **7.7%増加**

揮発性有機化合物（VOC）の大気排出量削減

京セラで使用しているVOCのうち、使用量の90%以上を占める下記4物質を対象に、削減目標を設定

トリエン、PA、アセトン、メタノール

2005年度上期の実績を基準として、
 下期に6%削減を目標



結果として、2005年度下期実績、
上期より7.7%の削減となり目標を達成

33

地球温暖化防止への取り組み



太陽光発電システムの導入

2005年度、新たに、下記国内拠点に太陽光発電システムを設置

滋賀八日市工場	210 kw
鹿児島国分工場	112 kw
鹿児島隼人工場	40 kw
合計	362 kw



3工場合計の年間CO₂削減量
248 トン-CO₂



“Solar-Grove”

2005年6月、京セラ北米統括会社の敷地内駐車場に設置（279kw）

34

最優秀賞

省資源 部門 デジタルフォトプリンタ用サーマルプリントヘッド
「KPRシリーズ」における原材料削減



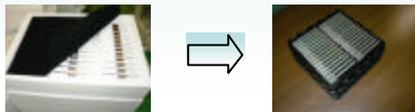
1. 高密度配線技術により、従来比約17%の小型化
2. 発熱体位置精度を高め、出力画質向上、アッセンブルプロセス時間短縮に貢献
3. 生産性向上により急激な増産にも対応可能

優秀賞

省エネルギー 部門
新型 RIE 装置導入による省エネ

化学物質削減 部門
新設備導入による化学物質削減

梱包材料削減 部門
梱包箱の変更による押さえスポンジの廃止
発泡スチロール PPTレー



京セラ地球環境貢献賞
累計表彰件数



35

京セラパーフェクト5 S推進活動

5S = 整理、整頓、清掃、清潔、躰

- ・ 「ザ・カンパニー」に相応しい工場づくり
- ・ 従業員一人ひとりの意識改革と感性アップ
- ・ 製品の品質向上
- ・ 生産効率の向上
- ・ 設備稼働率の向上
- ・ 清潔で動きやすい職場環境作り



パーフェクト5Sモデル職場(隼人工場)

1. 推進組織 : 社長をトップに、全社的な推進組織と委員会を設置
2. 啓蒙活動 : 社内でポスターを募集し、優秀作品を各事業所で掲示
3. 5S教育 : 社員・パートタイマー全員を対象に教育を実施
4. 5S査察 : 年4回の査察結果より、社長表彰、事業所長表彰を実施
5. 工場整備 : 「建屋、設備は常に新品の状態を維持すること」を基本に補修整備

36

京セラケミカル(株)会社概要



商号	京セラケミカル株式会社 (KYOCERA CHEMICAL CORPORATION)
本社所在地	埼玉県川口市領家五丁目 14 - 25
設立月日	1974年10月1日 (株)東芝の化学材料事業部が分離独立して設立 2002年8月1日に現商号に変更
資本金	10,172百万円 (2001年3月31日現在)
発行済株式数	45,045千株 (2001年3月31日現在) 京セラ(株) 持株比率 100.0%

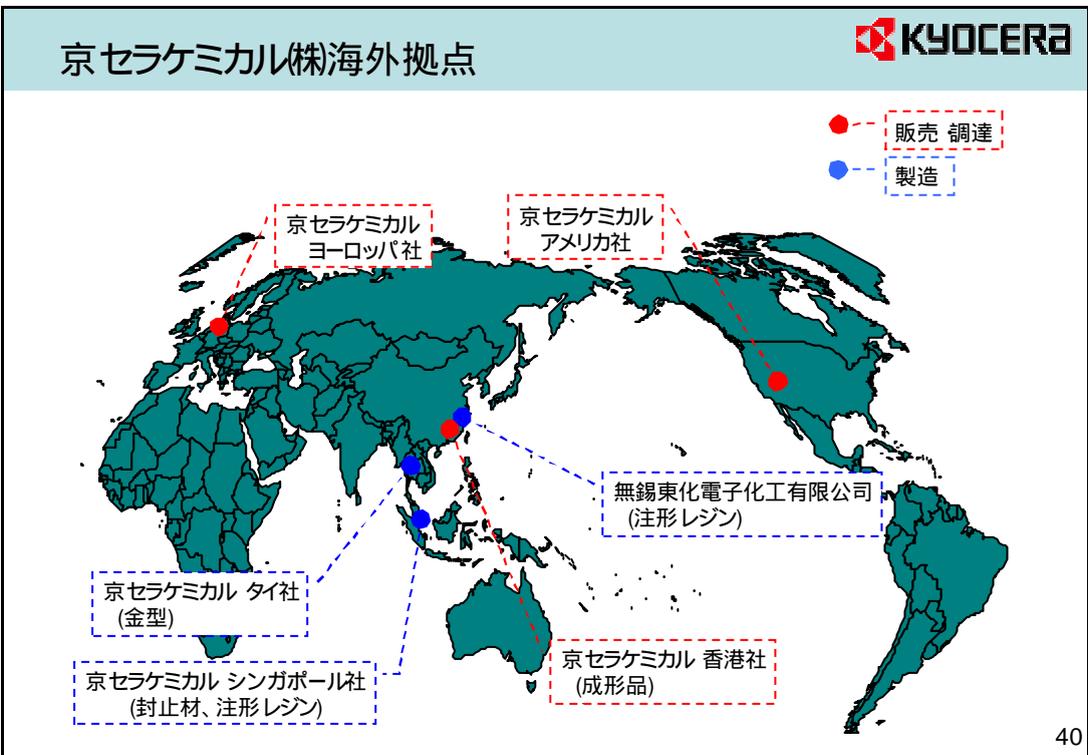
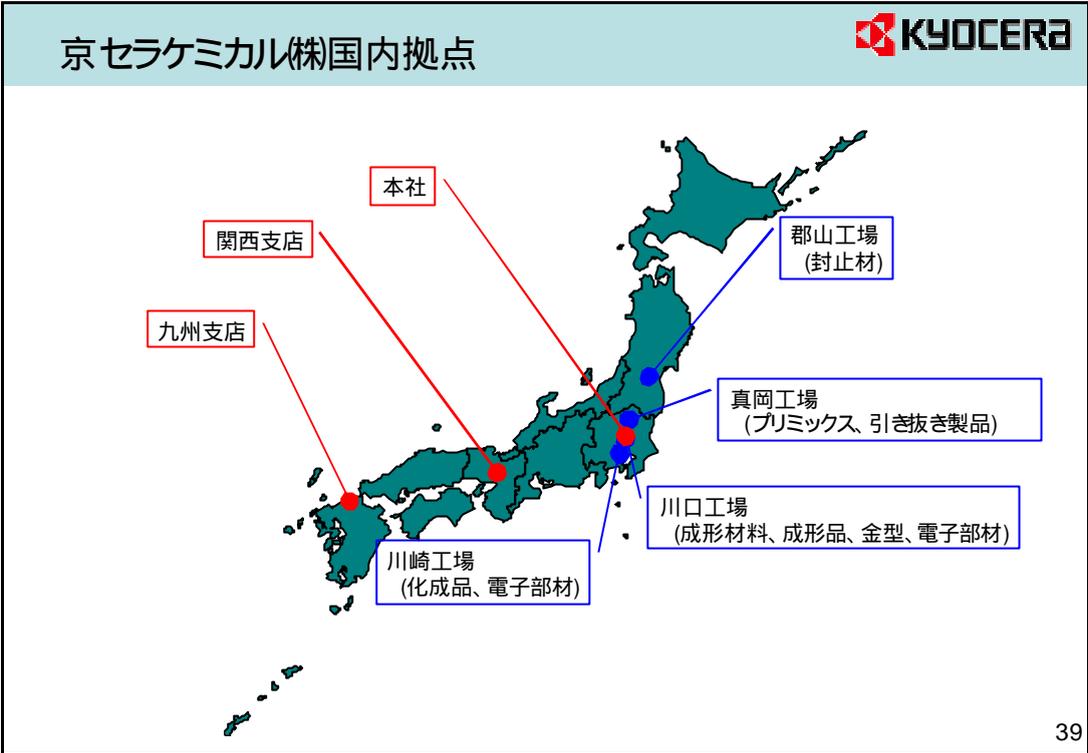
37

京セラケミカル(株)会社沿革



1974年	10月	東京都港区に東芝ケミカル(株) (現 京セラケミカル(株))を設立 (1935年 川口工場、1953年 川崎工場 でそれぞれ操業開始)
1985年	9月	アメリカにおける販売拠点として、東芝ケミカルアメリカ社 (現 京セラケミカル アメリカ社)を設立
1991年	2月	技術センター完成
1991年	6月	郡山工場竣工
1991年	6月	欧州における技術サービス拠点として、東芝ケミカル ヨーロッパ社 (現 京セラケミカル ヨーロッパ社)を設立
1995年	4月	中国における製造 販売拠点として、無錫東化電子化工有限公司を設立
1995年	11月	東南アジアにおける半導体封止材料、絶縁ワニス、注形レジン の製造 販売拠点として、東芝ケミカル シンガポール社 (現 京セラケミカル シンガポール社)を設立
2000年	1月	タイにおける金型事業製造販売会社として、東芝ケミカル タイ社 (現 京セラケミカル タイ社)を設立
2000年	3月	台湾における営業拠点として、東芝ケミカル台湾社 (現 京セラケミカル台湾社)を設立
2000年	10月	中国における成形品・金型等の調達 販売拠点として、東芝ケミカル調達 技術サービス香港社 (現 京セラケミカル香港社)を設立
2002年	8月	株式交換により、東芝ケミカル(株)は京セラ(株)を親会社とし、その完全子会社となった(上場廃止)。その後、商号を京セラケミカル(株)に変更

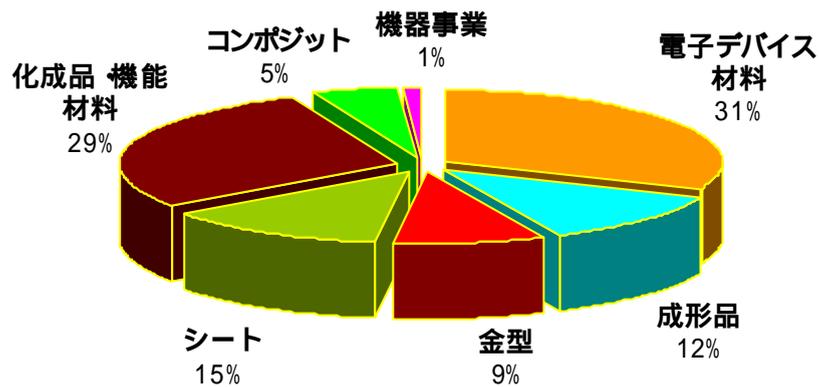
38



京セラケミカル(株)の事業別売上高比率



(全売上高 :18,488 百万円)
 < 2006年 3月期 >



41

京セラケミカル(株)郡山工場概要



操業開始	1991年 6月
敷地面積	66,000m ²
延床面積	17,846m ²
従業員数	127名 (正社員 89名、パート・派遣 38名)

42

- 91年 6月 **郡山工場竣工**
- 9月 低 線ライン完成 (92/3量産開始)
- 9月 タブレットライン新設
- 12月 汎用ライン完成 (92/6量産開始)
- 94年 6月 ISO - 9002認証取得
- 95年 5月 メガ・ミニタブマシン新設
- 96年 5月 汎用・ミニタブマシン新設
- 97年 12月 **ISO - 14001認証取得**
- 00年 8月 先端 1ライン完成 (00/11量産開始)
- 10月 **環境対応材上市 (ハロゲン・アンチモンフリー)**
- 02年 3月 高熱伝導ライン完成
- 02年 12月 ISO - 9001 (2000年版) 認証
- 03年 2月 **SONY グリーンパートナー認定**
- 03年 11月 **低温打錠棟完成**
- 06年 1月 **冷凍冷蔵倉庫棟完成**
- 07年 3月 **自動倉庫高速化更新予定**

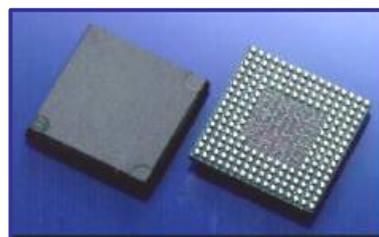
半導体封止用エポキシ成形材料

環境調和型製品の商品化
・ハロゲンフリー封止材



製品：エポキシ封止材

半導体の高集積化と表面実装技術の高度化に対応



用途例 BGAパッケージ



用途例：PC用メモリ

郡山工場のインプット・アウトプット



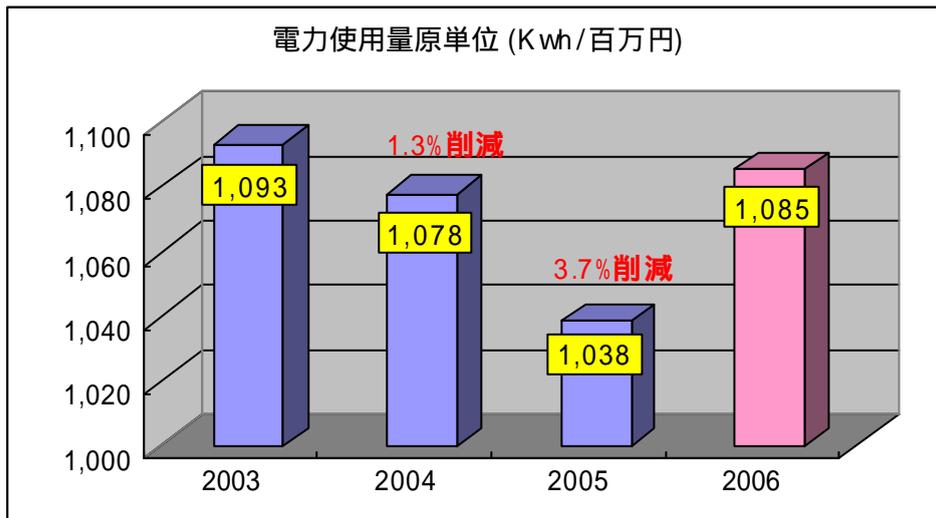
INPUT (2005年度)	
原材料	5,354 t
電力	4.80 百万KWh
燃料	322 KL
水	38,491 m ³



OUTPUT (2005年度)	
製品	5,086 t
産業廃棄物	384 t
温室効果ガス	4,610 t-CO ₂

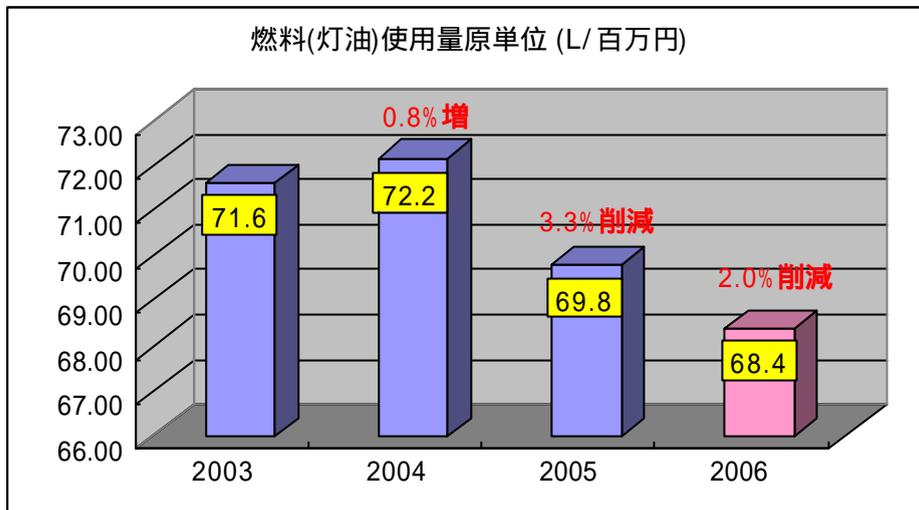
45

環境配慮の取り組み (電力削減)



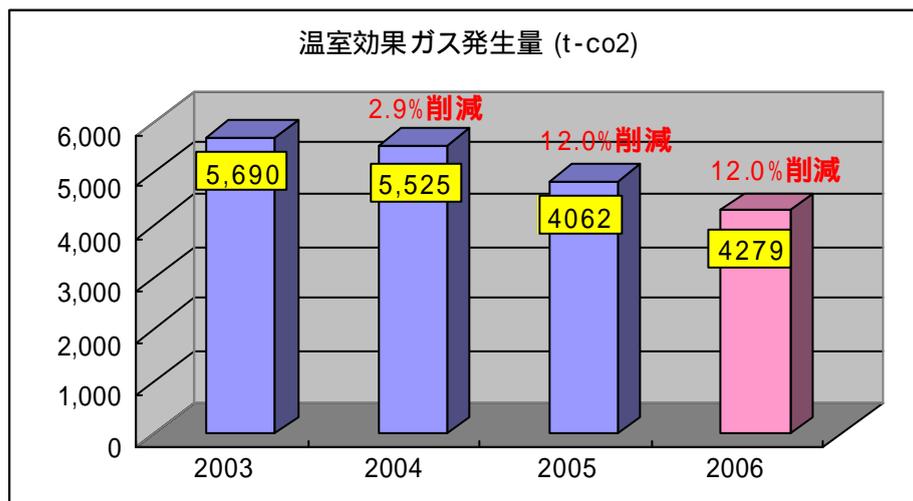
46

環境配慮の取り組み (燃料使用量削減)



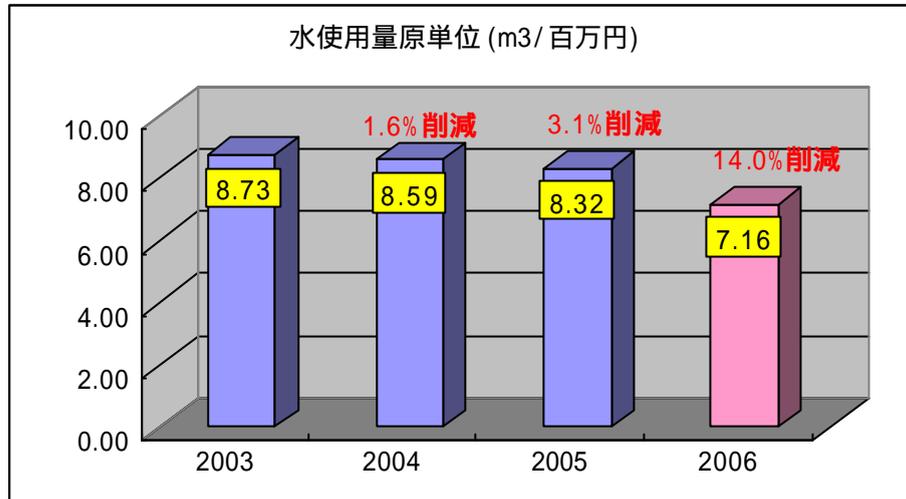
47

環境配慮の取り組み (温室効果ガス発生量削減)



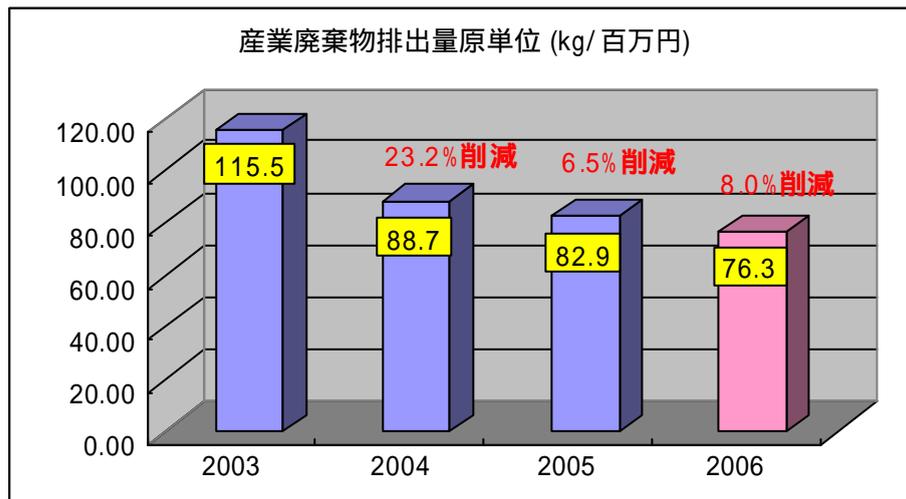
48

環境配慮の取り組み (水使用量削減)



49

環境配慮の取り組み (産廃排出量削減)



50

地球温暖化防止への取組み状況

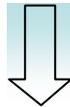


ボイラー蒸気圧設定変更

吸収式冷凍機(空調用冷水発生装置)の稼働状況に合わせ、変更した

時 期	ボイラー運転蒸気圧
7月20日頃～8月末頃	0.6MPa～0.8MPa
上記以外の時期	0.4MPa～0.6MPa

灯油削減量 20KL/年間



年間CO₂削減量
75.8 トン-CO₂



51

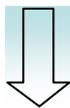
地球温暖化防止、水使用量削減の取組み状況



冷却水供給設備の増設

複数設備の冷却水を要求する温度に分けて冷却設備を統合及び再設置

電力消費量削減量 36,000KWh/年間



年間CO₂削減量
75.8 トン-CO₂

水使用量削減量 12,000m³/年間



52

社会 環境報告会



【2005年8月10日】

区分	出席者数
官庁関係者	8名
学校・病院	2名
地域住民	1名
工業団地会	4名
取引先	1名
報道機関	2名
合 計	18名

工業団地会の行事参加

- 公園清掃
- 道路清掃
- 夏祭り
- ソフトボール大会

地域社会での活動

- 歳末助け合い運動
- 各種義援金等参加

今後とも京セラグループの経済・社会・環境活動
 に対しまして、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い
 申し上げます。
 長時間にわたり、ご清聴を賜り、誠にありがとう
 ございました。